

会 議 録

- 会議名 平成 27 年度第 4 回佐賀県総合教育会議
- 開催日時 平成 27 年 10 月 13 日（火）15 時 00 分～16 時 00 分
- 開催場所 佐賀県庁新行政棟 4 階 特別会議室 B
- 出席者 （知事部局）山口知事、西中統括本部長、山口経営支援本部長
（教育委員会）古谷教育長、浦郷委員、牟田委員、森田委員、小林委員、
音成委員、福田副教育長、神代副教育長
（事務局）落合総括政策監、木島政策監、古賀政策監 他
- 議題 (1) I C T を使った教育の今後の取組について
(2) 平成 28 年度教育関係予算の編成に向けて

○議事録

1 開 会

（落合総括政策監）

ただいまから第 4 回佐賀県総合教育会議を始めさせていただきます。本日は会議のメンバー以外には執行部の方から西中統括本部長、山口経営支援本部長に出席いただいております。また教育委員会事務局の方から福田副教育長と神代副教育長にご出席いただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

では最初に山口知事の方からご挨拶をお願いいたします。

（山口知事）

皆さんこんにちは。ちょうどさっきまで日韓の海峡沿岸知事会議に行ってきました、韓国側の南側の知事 4 人と、私と山口県、福岡県、長崎県の知事との交流会議、これが 24 回目ということで毎年つながっていました。ちょうど今年の日韓国交正常化 50 周年ということで、私も 50 歳なので、ちょうど日韓が国交正常化してから 50 年経ったという年です。

西帰浦のYWCA、西帰浦っていうのは濟州島っていうところであって、そのYWCAの子達がこちらに来て名護屋小学校と交流するという、今朝はずっとそういう風なイベントがなされておりました。

日韓関係色々ある中で、まずはこの地域同士が24年間毎年やってきたのはすごく素晴らしいなと思ったと同時に、子ども達が交流している姿を見ると、次、これからの50年が非常に大事だと思うし、我々の責務として、地域もそうですけれども、そういう視野の広い世界に目を向けるような子ども達に育ててほしいなという風に思います。

佐賀工業に福岡から来た五郎丸選手も、佐賀での小城先生との思い出というものが、すべての原点だったと私にも言っていましたし、そうやってやっぱり教育っていうのは非常に重要だなという風に思います。

最近も、「知事さん、教育よ」と言われることが多くて、私の課題は教育なのかなど思いきや、やっぱりなかなかこれは私が直接執行する分野ではないので、もう皆さん方に、教育委員の皆さん方とそれから教育長にお任せするしかないなので、私はこういった会議でいろんな意見交換をしながら素晴らしい佐賀県の子どもを育てていきたいと思っています。

同時に、是非関係者の、特に先生の皆さん方にはですね、最近少し、一時こうバタバタバタバタとありましたけど、最近皆さん方のご支援のおかげでちょっと平静を保っているかもしれません。しかしそういったことがそういった将来への芽を摘むことになるので、やっぱり改めて我々関係者一同も、一人ひとりが自分にできることは何やろうかということを考えて、子ども達のためにも頑張っていきたいなという風に思います。

今日はこれまで議論させていただいたICTにつきましても報告を承って今後のことを考える会でありますので、是非よろしくお願ひしたいと思います。私からは以上です。

2 会議事項

(1) ICTを使った教育の今後の取組について

(落合総括政策監)

はい、ありがとうございました。それではお手元の次第にありますように、今日の議題は1番目にICTを使った教育の今後の取組について、2番目に平成28年度教育関係予算の編成に向けて、この2つを予定しております。

最初に ICT を使った教育につきまして、古谷教育長の方からご報告をお願いします。

(古谷教育長)

では資料の 1「ICT を使った教育の今後の取組について」の資料をご覧いただきたいと思えます。2 枚目のシートですけれども、事業改善に向けた取組についてということを書かせていただいておりますけれども、教育委員会では本県教育の質の向上と、それから充実に向けまして教育の情報化に取り組んでおりますけれども、今年度は県立高校で学習用のパソコン 1 人 1 台体制を導入して、ICT 利活用教育の本格実施に移行してから 1 年が年度当初に経過したということで、改めてこれまでの取組を振り返り、必要な改善充実を行うことで佐賀県ならではの特色を活かした、より効果的な ICT 利活用教育の実現につなげていくこととしております。そこで、これまで学校訪問を実施したり、あるいはアンケートや聞き取り調査などによる状況把握、それから事業改善のための検討委員会を開催するなどいたしまして、児童生徒や保護者、教職員、そして外部の有識者の皆さんの声を聞きながら、今後のあり方について総合的な立場から検討を行い、取組の改善充実を図って参りました。

3 枚目のシートをご覧いただきたいと思えますけれども、前回の総合教育会議の中で色々と議論、意見交換をさせていただきました。その中でも ICT 利活用教育のあり方について、あくまでもその ICT というのが教育改善のための道具であって、いい面もあれば、当然その使い方を誤れば悪い面もあるんだということで、道具に振り回されることがあってはいけないと。大事なのは使い方であり、うまく活かしていくことが大切だという方向性を共有できたのではないかという風に思っているところでございます。

その中で今後に向けた教育委員会としての方針のまとめとしては、具体的にはより効果的な ICT 利活用教育となるように、今後教職員研修の充実、それから組織的な学校支援を継続する、更に学習用パソコン 1 人 1 台体制にも取り組みますけれども、この維持と、購入に係る補助事業の継続などの ICT 機器システム等の維持充実等に取り組んでいくことが重要であると考えています。繰り返しになって恐縮ですけれども、教育委員会といたしましては、この ICT 利活用教育につきましては、今後とも学校現場に目を向け、教職員や生徒、保護者の声をしっかりと聞きながら、引き続き本県教育の質の向上に向けて ICT 利活用教育を推進していくこととしていただいております。どうかご理解の程をよろしくお願ひしたいと思えます。私からは以上でございます。

(落合総括政策監)

はい、ありがとうございました。これについて教育委員さんの方から何か特にございましたらお願い致します。よろしいでしょうか。ただ今教育長の方から ICT 教育について総括的なご報告があったところでありますけれども、それでは知事のほうから何かありましたらお願いします。よろしいでしょうか。

それでは、ICT 教育については知事の方からもしっかり検証をして取り組むようにということもありまして、今回こういった形で検証をし、またご報告を頂いたところでありますけれども、この方針に基づいて今後取り組んでいただくということによりお願いしたいと思います。

(2) 平成 28 年度教育関係予算の編成に向けて

(落合総括政策監)

それでは続きまして、2 番目の議題であります平成 28 年度教育関係予算の編成につきまして、これも教育長の方からよろしく申し上げます。

(古谷教育長)

資料は、資料 2 ということで刷ってあるかと思えます。平成 28 年度教育関係予算の編成に向けてということで、まだ、もちろんこれから具体的な予算編成については教育委員会内部でも色々と議論しなければいけないことはあるんですけども、教育委員会では、毎年その年度の教育関係施策の実施計画という形で、佐賀県教育の基本方針というものを取りまとめてございます。その中では、これまでも 6 つの柱を基本として施策を進めて参っております。その柱に沿ってご説明をしたいと思います。

2 枚目の方をご覧いただきますと、基本方針の柱ごとの主な取組という風に書かせていただいております。まず、その 6 つの柱のうち一番最初の柱が確かな学力を育む教育の推進ということでございます。教育に関しては、義務教育と、それから私ども県教委でございますので県立学校、県立高等学校における学力という 2 つのテーマがございますけれども、義務教育についてはご案内の通り全国学力・学習状況調査などでもなかなか厳しい状況が続いているという中で、やはりその結果をしっかりと分析しながら、

児童生徒一人ひとりの課題解決に向けて市町教育委員会、学校と連携した学力向上の取組を、これはもう本当に、これまでやってきたことをしっかり継続、徹底していくということで引き続き取り組んで参りたいと思っております。

それから、県立高等学校におきましては、大学受験力及び学力向上推進事業など、これまでも取り組んで参っておりますけれども、引き続き大学受験に関しては国公立大学への入学者も更に向上するような形で取り組んでいきたいと思っておりますし、あわせて専門高校、総合学科高校の基礎学力の向上対策等にもしっかりと取り組んで参りたいと思っております。

次に3枚目のシート、2つ目の柱でございます。豊かな心を育む教育の推進ということで、この中では4つほど項目を掲げさせていただいております。まず佐賀を誇りに思う教育を推進しようということで、これは委員さんの中からもそういったお声、しっかり取り組むべきだという声がございます。今年の6月補正予算でも言わせてもらいましたけれども、佐賀を誇りに思う教育の中で、一つは県内の小・中・高等学校におけるそうした学習について、特色ある取組の情報を集めまして、それを県内各学校に紹介することで参考にしていただくとか、あるいは、高校生向けに郷土学習資料作成に取り組んでいますけれども、来年度その学習資料を作り上げると同時に、郷土に関する講演会も各学校で開催したいと思っております。

それから、不登校についてですけれども、不登校からの復帰率が佐賀県では全国平均を下回っているというようなこともございまして、不登校児童生徒の教室復帰のための取組を、是非市町の支援の取組というのを検討していきたいという風に思っております。不登校はやっぱり小学校、中学校とも今年、増加しているということもありました。

それから3つ目が主権者教育。これもご案内の通り18歳以上の選挙権ということで、やはり学校教育においても、社会の一員であると、主権者であるという自覚をしっかりと持たせて、主体的な社会参加に必要な資質能力を育むための主権者教育を推進して参りたいと思っております。

それから最後に学校における芸術文化活動の推進ということで、平成31年度に全国高等学校総合文化祭が開催される予定になっておりまして、そのための準備に取り組みたいと思っております。また、各高校の文化部活動の活性化のために、専門部活動の充実に必要な支援なども実施して参りたいと思っております。

3つ目の柱が健やかな体を育む教育の推進でございます。こちらは児童生徒の体力向上に向けた取組と、運動部活動の件を挙げさせていただいておりますけれども、まずこの体力向上については、小学校において佐賀県の場合、全国平均を下回る状況がずっと続いているというようなこともあって、新体力テストの結果を活用して、この体力向上対策に取り組んでいきたいということでございます。

もう一つが、運動部活動については、やっぱり一つは適切な内容、方法による部活動を推進することと、それから国体等も控えておりますけれども、色々文化・スポーツ部とも連携して、やはり高校生の競技力の向上という取組にも力を入れていく必要があるんじゃないかと思っております。各専門部の強化事業への支援などを実施して参りたいと思っております。こちらについては、文化・スポーツ部ともしっかりと連携しながら取り組めるような形で事業もして参りたいと思っております。

それから、4つ目の柱が時代のニーズに対応した教育の推進ということで、こちらはまず先ほどもありました ICT 利活用による学校支援の推進ということで、こちらも研修、学校支援、あるいはそのシステムとか ICT 機器の維持充実ということで引き続き取り組んで参りたいと思っております。

それから、もう一つが産業人材の育成ということで、こちらは高校卒業後の県内への就職率というものを何とかして高めていけないかということで、そういった県内企業への就職促進のための新規の求人先開拓のための施策など、そういったものを含めて産業人材の育成については、今回、10 億の基金も設置していただいておりますので、農林水産商工本部ともしっかりと連携をしながら効果的な取組を進めていければという風に思っております。

それから次は7ページ目ですね。引き続き時代のニーズに対応した教育の推進その2でございますけれども、今後大幅な生徒減少期を迎えるということで、新実施計画第1次を昨年取りまとめたところでございますけれども、これの実現に向けて具体的な検討を進めていくということ、それから、あわせて、農業高校などの新実施計画の第2次についても28年度中に策定して取りまとめていきたいと思っております。

もう一つが今回、パブコメが終わりまして、特別支援教育の第3次プランというものを近々策定する予定にしておりますけれども、その中でも課題としております大和特別支援学校の分校の設置の問題、それから本校についてもかなり生徒数が増加しているという中で、非常に施設の環境整備というものが需要でございます。そういったところの

本校の整備も併せて推進したいと思っておりますし、それから、障害者の自立、社会参加のために、知的障害の高等部におきます職業コースの設置を推進していきたいと思っています。また、中学校、小学校の特別支援学級から高等部に進学してくる子ども達たちについても、小中高一貫したキャリア教育というものに、しっかり取り組んでいくようにしていきたいと思っております。

それから、5番目の教育活動を支える環境の整備でございます。こちらは、まず、優秀な教職員の確保というものが基本中の基本として重要な課題でございます。今後、特に10年間で教職員の4割が定年退職を迎えるということで、その後、いかに優秀な人材を確保していくかということについては採用手法を含めて検討をしていきたいと思っております。

また、あわせて、度々議会でも御指摘いただきますけれども、教職員のメンタルヘルス対策の問題、それと、先ほどちょっとはつきりは仰りませんでしたけれども、教職員の服務規律の確保については、こういった状況の中で、本当に真剣に一人ひとりが受けとめていけるような形の取組というか、服務規律の徹底というものをしっかりと図っていきたいという風に思っております。

それから、もう一つが学校施設の整備でございますけれども、これまで校舎の耐震化というものを優先して取り組んで参りまして、これについて一定の目途はつききましたけれども、引き続き非構造部材の耐震化の問題が若干残されております。さらに、そのために、いろんな各学校の校舎の老朽化についてなかなか手が付けられていないということもございまして、そうしたところの対策なども進めていければという風に考えております。

それから、6つ目の柱で文化財の保護ということで、世界遺産に登録されました三重津海軍所跡、こちらについては佐賀市の方で史跡の整備計画を策定する予定がございまして。そういった意味で県教育委員会としても、専門的な見地からの人的、財政的な支援というものを念頭において、整備計画の策定に対する支援を図っていきたいという風に考えています。この他いろんな教育施策というものがございましてけれども、まずは6つの柱の中で、来年度も力を入れて取り組まなければいけない主な取組というもののいくつかをご紹介させていただいております。私からは以上になります。

(落合総括政策監)

はい、ありがとうございます。この来年度の予算についてこれから議論させていただきたいと思っております。まず教育委員さんの方から何かご意見ございましたらお願いします。森田委員さんのほうからお願いします。

(森田委員)

こんにちは。私は個人的にスポーツをしていたので、健やかな体を育む教育の推進がまず一つで、子ども達が倒れたりしたときに昔は手を付いて倒れていたのが大半だったんですけれど、大分前から顔から行ったりするというのを聞きますし、あと佐賀国体もありますのでそういったところで、今の小学5,6年生くらいから国体には参加できるはずなので、ずっと練習とかしていけばですね。ちょうどいい時期ではないかと思うんですけれども、そういったことを考えて、できましたら運動部活動の振興関係とか、そういったところで、文化・スポーツ部との連携も必要でしょうけれども、競技力の向上だったり、小さい子ども達の体力づくりのことも考えて、こちらの方を少しお考えいただきたいと思うのが一つです。

もう一つは特別支援なんですけれども、7番目の時代のニーズに対応した教育の推進ということで、確かに子ども達は少子化になって段々減ってきているのが事実なんですけれども、反面、特別支援に関わる子ども達が増えているのが実情なんです。大和なんかは大分昔から特別支援学校として設立されているんですけれども、あそこの建物が老朽化したのも一つ、あとどうしても知的障害のある子ども達がどんどん増えているということで、教室関係の問題もありますし、中原なんかは分校ができて大分近場から通えてとても助かっているという保護者の意見も聞きますので、大和なんかは結構規模が広い範囲で集中してきているので、それを少し分散化といったら失礼ですけれども、もっと近場で通えるようなところに分校を作っていただくと保護者の負担も軽減されるのではないかという風に思います。

また、障害者の自立や社会参加を推進するための職業コースの設置もお願いしたいんですが、その中で、やはりパソコンとかが使えるようになってくると、前回もお話ししましたが、例えば作業場だったり、他のところでの仕事に有意義に使えるのではないかと考えますので、そちらの方もご検討いただくととても助かるんじゃないかと思えます。よろしくお願ひ致します。

(落合総括政策監)

はい、ありがとうございます。次、牟田委員さん、よろしいでしょうか。

(牟田委員)

今朝から教育委員勉強会や公安委員会との意見交換会をずっとやっけていまして、そういう中で、今日割と盛り上がったのが、学校のいじめとか暴力とかそういうのを予防するとか、相談するために県警がスクールサポーターという警察官のOBの方を派遣してくださっています。我々は生徒指導支援員、それも母体は警察官のOBの方なんですけど、非常に評判がいいです。評判がいいからもっともっと派遣したいんですが、予算というものが伴いまして、うちは派遣する人数が半分ですよ、県警よりね。スクールサポーターがうちの倍くらい居ますもんね。だから、それに負けないようにですね、予算をうちが望むから、出してくれるかどうか具体的には知りませんが、我々はそういうのもっともっと学校の中に入っていきたいと思っておりますので、是非、県としては支援していただきたいと思っております。以上です。

(落合総括政策監)

はい、ありがとうございます。浦郷委員さん、お願いします。

(浦郷委員)

いろんな方針の柱がたくさんあって、それぞれに大変重要なことですがけれども、私は4ページですね、「豊かな心を育む教育の推進」の佐賀を誇りに思う教育の推進の中で、この前もちょっとお話ししましたが、郷土学習資料、高校生向けのですね、この作成に大変期待をしております。立派なものを是非作っていききたいという風に思っているところであります。

ちょっと話がずれるかも分かりませんが、6月に九州地区の教育委員の総会がありました。鹿児島に行って参りました。鹿児島の総会そのものはなかなか面白かったし、懇親会もですね、きっちりいろんな懇親ができましたが、その次の日の午前中に視察があったんですね。それで鹿児島の黎明館ですかね、あるいは集成館、ああいった歴史的な資産についての学芸員の方々の説明がありました。3人くらいでやりました。それで聞いておりましたが、何て言いますか、佐賀と違うなというんでしょうか、あの人たちの

話を聞いていると、大変説明も手際よかったですね、実に熱っぽいですね、説明が。その熱っぽさっていうのはいったい何なのかと言うと、もうなんといっても、これはもうほとんど驚きながら聞いていましたが、臆面も無くっていうんですか、すべての手柄を薩摩のものにするんですね。見事なものでした。ここまで言うのかねというくらい、もう徹底して手柄のすべてを島津、あるいは薩摩のものにしてしまうという風な言い振りだったんですね。最初は、「いやー、どうかな」と、そんな感じにも見えましたが、でも、ずっと聞いていると、段々「なるほどね」と。こういうような形で自分の県なら県を誇らしく語るといことがないと、やっぱりダメなんじゃないかなという風な、そんな感覚を持ちました。近代産業についても、反射炉についても実は佐賀の方が先なんじゃないかと思うんですが、佐賀のことはぴろっとも出さんのですね。すべて自分達がやったみたいなの、そういう説明に終始するということがありました。

(山口知事)

それ間違えている可能性高いですね。

(浦郷委員)

それも感じました。ただ、それはそれとして、やっぱりあれだけ徹底して誇らかにあんな風に語るとい、あの語り口に、妙に段々感動するというか、そういうやり方もあるのかなという風な、そんな感覚を受けました。最初は呆れて聞いていたような面がありましたけれども、最後は、「いやいや大したもんだね」と思いながら帰ってきたわけですが、佐賀の場合どうなのかって言うと、やっぱり佐賀がこんな風にあっけらかんと褒めきれののかなという、ちょっと、佐賀人の気質もありましようけれども、ちょっとそういう面が欠けているんじゃないかなと。やっぱり自己アピールとか自画自賛めいた、そういったような方法というものも佐賀も考えていいんじゃないかと。

今、知事さんが佐賀を誇りに思うというようなことを盛んに言われて、私も実に、また、いろんな地域のいろんな方々とお話していると、「いやいやそうだよな」という話であります。そうであるだけに、どこか思い切ったそういう風な売り込み方というか、そういうものを持っていいんじゃないかと。そのために、やはりそういう風に佐賀の歴史なら歴史、その他いろんな事柄についてよくよく承知していなければできないことでもありますので、そういう意味でも郷土学習資料みたいなものを若い者にきちんと示し

て、そして本当の意味で佐賀のことをよく知って誇らかに語れるような、そういうような方向性を持っていきたいものだなという風なことをしみじみ感じました。

特に、鹿児島の一連の3人の学芸員と話しましたが、どれもそうなんです、やっぱりいいなと思ったのは、いろんな事柄を個々バラバラに話さないんですね。きちんと結び付けている。もっと言うと、やっぱり物語を持っているなど。それをしみじみ感じました。やはり薩摩なら薩摩という国の、その歴史的な物語めいたものをきちんと学芸員の人たち一人ひとりが持って話すんですよ。だから一つ一つがバラバラじゃなく結びついて、結構強気に迫ってくる。

佐賀の場合を見ていると何か有田焼でも何でもいいんですが、とってもいいものがあるにもかかわらず、個々バラバラの感じが何かするんですね。なんかもっと物語を佐賀は持たないとダメなんじゃないかという風なことをしみじみ感じました。そういう物語を作っていく上でも、事をやっぱりきちんと承知しなければならないことでもありますので、そういう意味でも、この今回の資料は大変重要だと思います。

高校生向けの資料を作ることで、また一般の大人社会にもきっちりしたそういう佐賀への理解を深めるという風なことがあればと思いながら、今回のこの柱ごとの主な取組を見ております。どうか是非、どういうものができるか、まだ形がよくわかりませんが、やはり何かある一種の物語めいたもの、そういうようなものを作り上げきったほうがいいかなという風に思っております。どうぞ県の方としても強力にいろんなご協力をお願いしたいものだなという風に思っております。

それと、それを作ることになるかどうかわかりませんが、他の県とか見て、ダイジェスト版みたいな、何かそんなものというのがうまくできないかなという感覚はあります。それは高校生だけではなくてもいいのかも、小学校、中学校も含めて、そう手間の掛からない、写真をたくさん使ったようなものでもいいですから、何かダイジェスト版みたいなものを一つ拵えて、そして、併せてもっときちんとした形の高校生向けみたいなものもあれば、小さな子ども達から高校生まで、ひいては大人まで、佐賀の誇らしい部分をしっかり承知できるんじゃないかという風に思っておりますので、どうぞこの取組について、是非深いご理解を繰り返したいと申し上げます。

(落合総括政策監)

はい、ありがとうございました。小林委員さんお願いします。

(小林委員)

はい。こんにちは、よろしくお願いします。私は保護者ですので、保護者の立場で話をさせていただきたいと思います。多分どの保護者さんも思うんですけども、きっと朝「行ってきます」と元気に学校へ出て、「ただいま」って元気に帰ってくる、子ども達が毎日、我が子がですね、そんな風に通って欲しいって願っている保護者さんが大半だと思います。そういう子ども達のために本当に佐賀県の教育っていうのをますます推進していきたいなと思っているところなんですけれども、どうしても学力とか体力が全国平均を下回っているということが結構クローズアップされていて、本当にできる力を佐賀県の子どもは一人ずつ持っていると思うので、マイナスではなくて明るい希望を持って、子ども達の元々持っている力を伸ばしていけるように、先生方の働き方とか、そういうことを応援していただけるような予算を組んでいただきたいなと思っていますところなんです。

どうしても元気に通える子ばかりではなくて、不登校対策とかも書いてもらっていますけれども、どうしても学校に足が向かないとか、学校までは行けるけど教室に入れないというお子さんというのも、年々増えたり減ったりはしているんですけども、やっぱり一定量の人数が必ず居てしまう現状があります。いろいろ要因があると思うんですけども、一人ひとりに理由があったり、復帰までの過程も多分一人ひとりに違う支援の仕方というのがあると思いますので、ここに強化と書いていただいていますけれども、これをやったらいいですよという一つのマニュアルができるわけではなくて、一人ひとりに対応していただけるような不登校対策の支援をしていただきたいなと思っております。もっと子ども達がいきいきと佐賀県に生まれてよかったなと思いつつながら、毎日学校に通って、進路選択をしていける後押しができる佐賀県の教育をしていただきたいなと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

(落合総括政策監)

はい、ありがとうございます。音成委員さんお願いします。

(音成委員)

私は、この基本方針の柱から、「豊かな心を育む教育の推進」の中の、学校における芸術文化活動の推進、ちょっとここのところで。この間、ちょうど教育長他、各委員の方々と一緒にこの佐賀県の総合文化祭を体験させていただきました。感動でした。まずオープニングの演劇、これも、今旬な三重津海軍所跡の世界遺産をテーマにした演劇で、とてもとても本当にあつとみんな驚くような演劇だったですし、そこで、その中のお一人の開会式のご挨拶がまた本当に大人顔負け、もう堂々たるものや、これが本当に高校生かと思うくらい立派なご挨拶をされました。そういういろんなオープニング、日本伝統文化というのがあったのもよかったですね。吟詠とか琴とか、剣詩舞って言うんでしょうか、そういうものとか、郷土芸能がちょっとなかったように思いますけど、そういう風な総文祭が、今度、31年度に、第43回でしょうか、佐賀で行われるということですので、スポーツ、高体連でもそうですけど、スポーツ関係は結構、例えば高体連があるとなったら、競技力アップのために専門部の強化事業への支援がなされたり、お金が結構つき込まれますけれども、芸術文化においてはちょっと支援が薄いんじゃないかなと思われます。こういうのをきっかけというわけじゃないですけど、本当はずっとこれが終わっても続けて欲しいんですが、やっぱり高校文化部活動の支援とか活動の環境を充実させることで、高校生の創造活動の補助とか、将来の日本文化の担い手の育成にもなるので、大いにここら辺はちょっと予算を組んで力を入れて欲しいなと思います。

ただ、それにはやっぱり学校の先生、部活の指導者の養成とか、プロの実技指導者の導入とかも必要ですし、その辺の予算組みとかもあると思うんですけども、世界に誇れる陶磁器文化の佐賀県ですので、文化立県って言われるように何とかこの辺を積極的に取り組んでお願いしたいと私は思っております。

それともう一つ、時代のニーズの部分の産業人材の育成のところなんですけれども、この間もそうでしたが、工業関係のものづくりというのは今ずっとなさっていますけど、この産業人材ですけど工業ばかりじゃなくて、やっぱり農業とか商業とかそういう育成というのも必要じゃないかなと思います。それと、食の6次産業化とか言われていますけど、高校生達にそういうのをやって何か競い合わせるとか、そういうのが必要じゃないかなと思います。農林水産商工本部と連携してと書いてありますので、そういうのも必要でしょうから、こういうところに予算をしっかりと持ってきていただきたいです。以上です。

(落合総括政策監)

はい、ありがとうございます。一応委員さん方からご意見を伺いましたけど、執行部の方から、両本部長から何か。予算の話が何回も出ましたが。山口本部長いかがでしょうか。

(山口本部長)

教育委員会の予算というのは、県庁のいろんな部署の中でも非常に特異な分野なんですね。全体の予算の8割強を人件費が占めているものですから、我々、門外漢として言わせてもらおうと、やっぱり次の教職員大量退職の話にもちょっと書いてありましたけれども、需要者と供給者が主に人間だということに非常に特色のある分野ですので、そういう教職員の方々の育成なり、心、気持ちの持ちようということに意を教育委員会の方で尽くしていただければ、我々も非常にありがたいという風に思っています。

それからどんどん予算をというお話ですが、それはまた年末年始の前後にかけて予算の査定が、というか予算の折衝がありますので、楽しい意見交換の場になることをお互い期待していきたいなと思っています。すいません、細かい話じゃなくて、おおまかな話で恐縮ですけども、私からは以上です。

(落合総括政策監)

ありがとうございます。西中本部長の前職は文化・スポーツ部長ですけども、何かありますか。

(西中本部長)

そうですね。予算の具体的な議論はこれから考えていくことになると思いますけれども、前職の文化・スポーツ部長の経験と反省を踏まえて、自分も気をつけとかないといかんと思うところをちょっと申し上げておきますと、佐賀を誇りに思う教育の推進のところ、これはまさに課題のところだと思いますので、今、県内にもいろいろ博物館とか本丸歴史館とか、そういう小、中、高校生の人に来ていただいて、伝えなきゃいけない内容を持っているところってあるんですよね。それを文化・スポーツ部長のときの反省で言えば、そういう役割を自分達が果たしていたかどうかというのがありますし、教育委員会の方にお問い合わせするとすれば、いろいろこういう議論をしていく中でそういう役

目を果たしてもらおうことを求めてもらっていたかどうかというところもあろうかと思
いますので、文化・スポーツ部との連携で言えば、こういったところも教育委員会の内
部の方でもご議論をいただければなという風に思います。

それともう一点は部活動の話、文化部もそれから運動部も出て参りましたけれども、
これは本当に問題意識として持っているんですけれども、次の県立高校再編のところに
大幅な生徒減少期とあるじゃないですか。中学校レベルでだったか、いくつかの団体種
目については、文化部でも団体がやるようなやつについては、生徒さんが減っているの
で成り立たない、チームが組めない、そういう現状にあるらしいですね。これはスポー
ツの方で言えば中体連とか高体連の方の大会の運営方法としては学校代表ということ
になってしまうんですけれども、これからもやっぱり子ども達がどうしても減っていく。
そういう中で、中学生や高校生の年代に、やはりスポーツとか文化にどういう風に関わ
っていくのか。その関わり方というのが部活動という関わり方だけで対応できるのかど
うかというのが問題意識としてありまして、そこはスポーツ課も問題意識を持っている
はずなので、いわゆる全国大会まで含めてずっと一連の流れがある中での話なので、い
ろいろ難しいところもあろうかと思えますけれども、是非そういったところは議論をさ
せていただく必要があるんじゃないのかなという風に思った次第でございます。以上で
す。

(落合総括政策監)

何かご案内したいご意見等がありましたら、どうぞ森田委員さん。

(森田委員)

先ほどの意見、とてもありがたいことなのでよろしくお願ひしたいと思えますけど、
先ほどお話ししたことに同じように重なるかもしれないんですけれども、先日、教育長
もそうですけど、小林委員と音成委員さんと一緒に中原の方の特別支援学校を見学に行
かせていただきました。分校舎の方に。保護者の方とかの話を他から聞くと、やっぱり
ここの学校に来たことによって子ども達の成長がとても見られたとおっしゃっていた
のを覚えています。また、委員さん方も、ここまで充実して頑張ってくださいっている先
生方にとっても感動されたのをお聞きしました。ただ、これをこのまうまく活かして、
障害を持った子ども達が就職するに当たっての関係で、ここにも書いていますように職

業コースの設置という風に書いていますけれども、やっぱり特別支援学校に行ったことによって、本当でしたらまだ成長が著しく、普通の学校とかに、特別支援学級に行っている場合は成長が著しかった子ども達が、例えば小学校、中学校から特別支援学校に行くと、先生から、あるいはお友達からの影響が大きくて成長が見られる、だったらこれをうまく活かして、先々高校卒業したときに就職できるような、施設に入る、病院に入る、自宅で介護するだけじゃなく、一般就労までは行かなくてもやっぱりそういう子ども達が就労できるような形をこれから先も、すごく子ども達は減っていく、でも障害を持った子どもが増えるのであれば、そういったところをもっと充実していただくと、先々子ども達が一人で自立はできないにしても、それに見合った近いような感じの自立ができる可能性もありますので、そういったところをよろしく願いできたらなと思います。

(落合総括政策監)

はい、ありがとうございます。他に何かございますか。

(浦郷委員)

一ついいですか。このいろんな芯というか柱に関連して、それが出ませんでしたので申し上げますが、8ページですかね。「教育活動を支える環境の整備」の中で、優秀な教職員の確保、育成の問題が実はあります。これについては、特に教育委員会の中でも話をしたんですが、確保はもちろんだけれどもやっぱり育成っていうのが実はとっても大切ではないかと。だから育成についていろんな研修等々やっていますけれども、その辺もまた細部見ながら、育成について少し力を込めてやっていくべきではないだろうかということをおっしゃいました。

そのときに、やはり佐賀県の教師であるという、例えばそういったような心構え、使命感、そういうものも含めたものをきちんと持った教員を育てていく。確保の問題は、多少前よりも教員の採用試験の倍率が低くなったとか言いながらも、結構なレベルで人は入ってきていると思うので、あとはやっぱり育成の問題だろうという風な感じを強く持ちます。それで育成に向けたいろんな取組をすべきだと。そしてやっぱり佐賀の教師という、そういうことをきちんと教職員にも念をおきながら進めていく、そういう育成ができればなという話をしたところであります。その辺で県の方からどうのご支援が

得られるかどうか、そんな事は私はよく分かりませんが、ただ、そういう方向で、前にも言いましたが教育というのはやっぱり教員なんですね。教える側の構えがどうであるかが、子ども達に直に伝わっていく、そういう世界でありますのでやはり教員の育成という事について、教育委員会としてもしっかりやっていくことになると思いますが、どうぞいろんな意味でご支援を宜しくお願ひしたいと申し上げておきたいと思っています。

(落合総括政策監)

他にございますか。今までの議論、先ほど教育長の方からは全体の概要をお話していただきましたけど、何かありますか。

(古谷教育長)

委員さんの意見も私に半分言われているような辛いところがあるんですけども。本当に、改めてこういう形で基本方針ということで柱ごとに取りまとめてみると、やっぱり教育委員会というのはいろんな課題があるなど。これは議会でもやっぱり 15 人中、今回は 11 人の方ですかね、ご質問いただきましたけども、いろんな質問がありました。なかなかこれをこうやれば解決できるというのがなかなか見出せないんだけど、教育委員会としてはそこはもう絶対とにかくいい方向に向けてしっかり取り組まなければいけないという項目が一つ生まれる。それはそれとしていろんな形で進めていきたいと思ひますし、あわせて、このタイミングで絶対にやらなければいけないこともいくつか行われていると思ひます。例えば 31 年度には総合文化祭がございますけれども、是非それに向けてその総合文化祭そのものが目的というよりはそういうものに対して取り組む中で本当に佐賀県の文化活動というか芸術文化活動がしっかり高められる様な取組というのをしっかりできればなど。これはもう限られた、目標が決まっている中で取り組まなければいけないことなので。

もう一つの面で捉えていいますと、高校の再編の問題のなかでも、生徒減少というのはいつの時期に来るといふのはわかるんですが、それに向かつて、学校の再編のあり方ということについて来年度しっかり方向付けしていくことになります。タイムリーにその時期に絶対やらなければいけない事もありますので、それはそれでしっかりやって行きたいと思ひます。

それと浦郷委員が仰いましたけれども、あと山口本部長からもございましたけれども、まさに教育委員会の予算というのは人件費が一番の事業費なんですね。その事業費をしっかり生かしていくためには教職員 1 人 1 人の育成というものはしっかりやっていく。特に佐賀の教職員としての意識付けというものをしっかりやっていけという、今日午前中にも浦郷委員からもそういうお話を頂いたんですけども、その辺も我々としてもしっかりやっていかないといけないし、もとより服務規律というものはきちんと確保しながら進めていきたいと考えています。

なにしろ、とにかくいろんな課題がありますけれども、いずれにしても、一步でも二歩でも前に進めるようなもの、それからある時期にはきちんと片付けていかなければいけないものがありますけれども、しっかり取り組んで行きたいと思っています。

(落合総括政策監)

ありがとうございます。他に何かありますか。

全体をお聞きになって、知事の方から宜しくをお願いします。

(山口知事)

ありがとうございました。一々ごもつともだと思うんですよね。一つだけ気になったのは、皆さん方もご案内の通りだと思いますが、改めてこの機会に申し上げておきたいのは、教育委員会という制度は、皆さん方で議論して佐賀県の教育をどうするのかという、我々ではなくて皆さん方がその責任を負っている訳で、ですから皆さん方がこういう風に佐賀県の教育を考えた方がいいんじゃないかと思えば、事務局の方にがんがん指示をして、こういう資料を出しなさいとか言ってよく勉強してもらって、それでその上で、「あれ、予算が足りんよね」とか「ちょっとこっちの方が、もっと一緒にやったほうが上手くいくよね」とお思いになったらここでお話いただいたらいいのかなという風に思うんです。ですから、これまでこの会議がなかったのはそういうことで、独立してそちらでやっていたということで、今回からは少しお互いの意思疎通をしながらやっていった方が、いわゆる教育委員さん自身にも出てきていただいてということなので、ここで訴えていただくこともいいでしょうけれども、皆さん方が教育委員会の中で是非真剣に、すべてデータも出させて時間をかけて議論いただきたいなという風に思います。

その上で私の方から申し上げたいところをいくつか申しますが、まず一つ ICT については本当によくいろいろ検証していただいたので、これもあえて申すまでもありませんが、今後メンテナンスをしっかりとっていくというか、これで終わりでは決してないと、これからも常に点検をしていくと、そして現場の意向を取り入れてということが大事だということを再度申し上げておきたいと思います。

それと一つ、今日のお話で気付いたのが、10 年間で教職員の 40%が定年退職だということを、私らも、こちら側も重く受け止めなければいけないなと思いました。その上で、この皆さん方をどういう風に更にご活躍いただけるのかと言うことが、先ほどの生徒指導支援員の問題もそうですけれども、場合によってはさらに残っていただくというやり方も色々あるのかと思います。また、学校から出ていただいて部活の支援をしていただくというやり方もあると思いますし、ただ闇雲に 40%を若い人に入れ替えるというのはあまりにもどうかかと。佐賀の一つの特徴として、やはり本当にこれまで培ってきたものを連綿と若い人に受け継いでいくということが私は佐賀の価値だと思っていますので、むしろ、更に活躍いただく方法を、もちろん再就職というかさらにもう数年やっていただく、昔に比べれば 60 歳といってもまだお元気そのものですから、という風には思います。そのやり方を是非工夫いただきたいなと思っています。

それと、浦郷さんのさっきの話から言うと、私も誇りあるやつ、テキストを一回ちらっと議論したことがあるんですけども、やっぱり、こんなことがあった、こんなことがあった、こんなことがあった、ということがずっと並ぶような形になるような感じもあったので、それだと全然心に入らないし、結局ストーリー性がまったく無いので、一つはダイジェスト版を考えようよという話と、もう一つはストーリーがある話を何かでやって、この一つぐらいのストーリーはみんな心に残るようにということを考えようというのを申し上げたんですね。

今のところ私がいいと思うのは、それこそ反射炉が佐賀ではできたのに薩摩でできなくて、島津斉彬公の言葉で「西洋人も人なり、佐賀人も人なり」ってあるじゃないですか。ちょうどたまたま鹿児島との何かの九州の戦略会議か何かのときに、鹿児島の人に「反射炉というのは佐賀が作ってね」という話をしたら、「違う、あれは薩摩が作ったんだ」って言うから、「いや違うそうじゃないですよ、佐賀のものを薩摩が何とか真似できんかということで苦労してやったんですよ」と言ったら「んにゃんにゃんにゃ」と。そしたらたまたまその日、あるうちの新聞がその特集をやっていたので、ぱっと見せた

ら、「ああつ。斉彬公がね」って感じになられて。ある意味、鹿児島って怖いなって、それくらい全部うちらがやったんだっていう感じで教育しているわけですね。ところが、先ほど言った「西洋人も人なり佐賀人も人なり」ってどういうことかということ、鹿児島
の立派な斉彬公が、鹿児島のみんに「西洋は非常に近代化している」と、「でも西洋
人だって人間なんだぞ」と、「お前らと同じ人間なんだぞ」と、「ちなみにそれを作っ
た佐賀人だってね、人間なんだぞ、お前らにできない事はないんだ」って鹿児島が教育
しているわけです、斉彬公が。例えばそんな話からしてもいいし、特に今、薩長土肥っ
て知事同士でやっていますけれども、僕が常に申し上げているのは、残りの三つの鹿児
島と長州と土佐は、やはり軍備で頑張ったわけですよ。でも佐賀藩というのは、ある
程度江戸あたりからしか戊辰戦争に参画しなくて、その参画の仕方もどちらかという
ものづくりなんですよね、そういう武器を持っていたという。要は知恵とそれから人、
重信公とか、ものづくりと人づくりによって佐賀藩は薩長土肥に列せられているん
ですよ。ですから、一所懸命戦ったということよりは、むしろ自分達のものとする
思いということとか、このあたりの話というのは佐賀人の心に刺さるし、本当の話だし、
あんまり我が我がというよりは、葉隠ということもあるのであんまり、という所も
あるので、そういうところをうまく一つだけでもみんなで喋れるような話を、実は
そうなんですよっていうところですね。うまく鹿児島を使いながら。そうすると薩
摩を立派に導いた斉彬公がそう仰っているわけだから、ということとかも使える
のかなと言う風に思いますね。そこを語れるようになんか一つ作ってもらって
みんなが本当に誇りになるようにと思います。

それから伝統文化や和の問題というのはやはり重要で、昨日やっぱり韓国の知事達も、
お見せした人形浄瑠璃だったりとかお茶やってもらったり、茶道やってもらったり
とか、ああいうのは非常にやっぱり感銘を受けられるというか、そういう伝統的な
ものって素晴らしいということを改めて感じたわけです。私も、今度、今まで叙勲
っていうのも正庁でやっていたんですが、今度から本丸歴史館で私が和服を着て
やることにしようと思っ
ていまして、皆さんも和服で柳町あたりを歩いてみてください。そういえば、
佐賀って本当に和の伝統が色濃く残っている。福岡や長崎と今回一緒でしたけども、
向こうのPR ポイントとはやっぱり佐賀はちょっと違って、やっぱり本当の和
がある地域だと僕は確信しているので、そういったところをもう少し出して
いったらいいのかなという風にも思います。

それと、障害はね、森田委員さんいつも言いますけれども、これはもう一つ一つしっかりと、特に就労、単にその人たちはそれしか出来んではなくて、少しずつでも社会の中で一緒に出来るような形で、ステップアップが出来るような形で見ていくということが大事だと言う風に思いますから、ここはしっかりとやらせて、こちらもこの分野は私もしっかりとよく連携してやっていくという強い認識を持っているところです。

それから今日ちょっともう一つ申し上げておきたかったのは、今私が確信は持てないんだけど、教育委員会自体が高校の方の意識が強いついていうのか、義務教育のことをもうちょっとやっていただいたらいいのかな、という意識を私は持っていて、どういうことかと言うと、この前部活の話をしましたけれども、小中学校の時にはいろんなものに触れ合えるような形、この前私、勸興小学校での地区との運動会にずっと朝から晩まで出てたんですけども、非常にいい雰囲気やってあって、ああいうのもいいなと思うし、いろんなことが出来たらいいなと思うんです。

ところが、高校みたいな考え方、高校の部活ってすごくやりますよね、一所懸命。そこがまた中学とか小学校まで段々こっちまで来ている様な気がしていて、あんまりきつくやりすぎていると、例えば部活を土日もやっていて、それが付いていけなくなると不登校になったりしているんです。なんとなくそんなプレッシャーをかけちゃいかんと僕は思うんです。高校位になると、ある程度義務教育でもないし、自分の力でとことんやりたい人はとことん何でも追求したらいいと思うし、五郎丸君みたいなのもそうだけれども、やったら良いと思うんですけども、やっぱりまだ中学生とかまでは話してもそんなに自我が出来てる訳ではなくて、そういった子どもに、例えば土日も含めて徹底的にやるのよってということで、佐賀県の親ってすごく教育熱心で立派な人が多いから、頑張ろう頑張ろうって、土日も夜までやるぞって、そうすると、段々その流れの中で、もうちょっときついついていう子ども達が抜けられない空気になってきて、親も辛い、巻かれる的な状況になってくることも私はあると思っているので、ここを教育長、ある程度見てあげないと、じゃあ土曜も朝から晩まで、日曜も朝から晩までとか、そういうのってやっぱり本当にいいんだろうか、と思うわけです。

前から言ってるように、やはり佐賀の人たちには精神状態を伸び伸びと成長してもらいたい、中学卒業までは。そういう風に思うし、その時に出来れば音成さんも仰ったけどいろんなことが経験できるって素晴らしいことで。私はもうこれを部活でやってきた

のでこれしかできませんっていうよりは、いろんな友達がいていろんなことをやっていくような、そういうおおらかな人、子どもを育てて欲しいなって思います。

これ PTA の問題も含めて難しいですね。今までの伝統っていうのもあるし、やっぱりそれは反発もあるでしょう。ただ、やりすぎっていうのはやっぱり極めて何かの弊害を、県職員もそうですが、あんまり、こうしろよと言うのはいいけど、あんまり押し付けでやると今度逆効果なんです。もっともってやると、やっぱりいい味が出てこない。押し付けすぎると。それっていうのは本当に教育もまさにそういうことで、抑圧とか、みんなで頑張るんだっていうところにもやっぱりある程度限度があると思うので、そのあたりの塩梅を是非。浦郷先生も分かってらっしゃると思うんだけど、現場を見ていただいて、どのあたりで落とすのかというあたりを教えてくださいなということです。中学まで。私も色々見て現状調べるように努力はしているんですけども、やはりそういう声、特にやはり頑張りすぎてもう学校に行きたくないって、本当仕事みたいな感じ。学校に行くことが。学校に行くことっていうか部活することがっていうのは本当に必ずしもいいことではないので、これ一所懸命にやっている先生とかもいらっしゃるので裏腹だから難しいところもあるんですよ。だから、そこをうまく軟着陸できるような形でやっていただくと、そこにおそらく体力向上と学力向上が見えてくると思うんです。やっぱりあれだけやっていれば勉強する時間がないですよ、子ども達。あと親と過ごす時間とかですね。だから、なんとなくこの前の勸興小学校の運動会見ている、中学生とか来ていないなって、あんまり。みんなどうしたって言ったら、もう今日は部活ですとかね。何かちょっと、あれ連休やったから。三連休で。それ全部部活で潰しているっていうのもどうかなとか。

(古谷教育長)

うちの校区は一昨日あったんですけど、運営に中学生がボランティアで 20 人くらいいました。

(山口知事)

だから、そういう中学まではある程度ゆったりしたプログラムというか、九州大会とか全国大会とかいいからさ、あんまりそこまでは。だから、むしろいろんなことを経験して、健やかなままで卒業させてあげたいなと思います。

(小林委員)

それを求める保護者さんも多くてですね。

(山口知事)

本当に。

(小林委員)

本当です。私びっくりしたのが、指導者の方が、三連休だから一日は休みにすると言ったら、「いや、この日は」と言って練習試合を持ってこられる保護者さんもいらっしゃるんです。

(山口知事)

すごく頑張っちゃう親御さんがいるんですよ。だから、それが非常に悩ましいところでもあるんだけど、それをみんなで軟らかいルール作りをして、少なくとも運動部が例えば土日の片方休みにすると、今度文化部が両方やったりとかね。だからそのへんよく、どういうやり方がいいんだろう。

(古谷教育長)

ですね。だけど、本当にボランティアの方、中学生が20人くらい来てくれていたんですけれども、最後にみんなで彼らに感謝の拍手をすると、すごくやっぱりうれしそうなんですよね。だから、やっぱりああいう体験っていうのも、部活真っ黒じゃなくて、私は本当に大事なことだと思いますね。リレーも中学生までは必ず出るようにしてというのは伝えてもらっているんですけど。

一応指導はやっているはずですよ、週一回は必ず休むようにということでやっていると思うんですけれども、おっしゃるように。

(小林委員)

そうなんです。それを少し弱めた方がいいですよって話をすると、「なんば言ってくれよる」って。

(山口知事)

そうそう。分かる分かる。

(小林委員)

かえって反対に怒られるんですよね。程々がいいですよと、子どもの為にもと言うけど、「いや、もう休みなくすることが強くなる」ということを強く信じてらっしゃって。

(山口知事)

そうそう。それね、どこでも一緒。県内にそういう方がおられて、そうすると引きずられるわけですよね。だから、ここはある程度ねっていうところだと思うんです。駄目なものは駄目というか、いかんはいかんってあるじゃないですか。だから別途言いましたが、本当に守らんといかんルールというのをちゃんと決めようよと。何かもう守らんでもいいルールというのが小学生や中学生にあるらしくて、校区内の公園しか行っちゃいかんとか、そんなルールは弊害でしかなくて、だから、親御さんがもう絶対いけないってようなルールをきちんとやっていくということが大事なことだけど、その辺をよくみんなで議論するとかして、大船の親達が思っている姿が少しでも実現できるようにみんなで話し合ってもらいたいというのが我々のというか、私の考えです。

さすがに教育の問題は自分だけの思いで言うといかんで、いろんな人から裏を取っているんですね。職員にも子ども達を持っている親も多いので。ただ、やっぱり今、小林委員さんがおっしゃったように、なんとなく関東軍になってみんなでやっているところがあるので、本当は思いがちょっと違ったりとかするので、そこには是非寄り添ってもらいたいと思います。

(浦郷委員)

そういう風に言う人がいると、他のことをなかなか言えないような雰囲気になってきているんですよね。だからよくよく本音を聞くと、いややっぱりちょっとやりすぎだよねと。もう日曜日ごとに小学生で練習試合組んでどこか行くみたいな現実ってあるじゃないですか。でも、よくよく聞くとちょっと違うんだろーと思いますけどね。だから結局のところ子ども達にとってどうかというその視点をきちんと作り上げなきゃいかん

などと思いますね。多分小学校と中学校とまたちょっと微妙なんですよね。競技をやり通していくときに、どこからどう始めた方がいいのかというのは競技ごとに多少違いもあるし、年齢的にもですね。やっぱり中学校くらいからやらなければならないものもありそんな気もするんですね。

(山口知事)

ある。だからその辺を見てはどうかと。私は、今ちょっと極論を言い過ぎたのかもしれない。ただ、そこには自ずとバランスが必要になるかもしれないので、是非それは、できることであれば教育委員会の中で実態をよく調べていただきたい、事務局がちゃんとやるので。その中で議論をして、やってもらったら、すべてがうまく回ると今のところ思っているんですが。学力の問題も、実は学力を求めている親もすごく多くて、やっぱり勉強してもらいたいなど。

(小林委員)

部活とかを頑張る為に宿題を少なくしてくださいと言われた方もあったんですよ。それは逆やろうと思ってですね。まずは勉強して、小学校の段階はですね。あんまり多いと、部活で頑張るから宿題ができないんですと言われる保護者さんもいたときに、ちょっとそれは違うかなと。

(山口知事)

だからその、そもそものところで、義務教育の時にやるとすれば、本当に本当にやりたい人達には、クラブとか別の環境があってもいいんじゃないのかな。それこそ、これから退職する方も出てくるし、その中で部活関係の先生もおられるから、いろんな仕掛けをこれから考えて、いわゆる普通のところにはあまりストレスを掛けすぎないようにして、更に頑張る人たちは、競技力でもそうだけれども、学校ごとのクラブも成り立たないじゃないですか、バレー部とか。そうしたら、ある程度、このところでこういうチームを作ってやろうねとか、人の個性に応じて参加できるような仕掛けを作っていく。今までは右肩上がり子どもはどんどんどんどん増えていったので、ある程度大雑把にやってもよかったのかもしれない。でも、そこはもう今時代が変わってきて、もう少子化にもなってきているので、本当にもう少しきめの細かい仕掛けを作っていくって

ということが求められる。なので、最後になりますけれども、今の教育委員の皆さん方は、非常に昔よりも大事だと思うので、よく現場を見ていただきたいと思います。

(落合総括政策監)

はい、ありがとうございます。熱心な議論ありがとうございました。ここで終えさせていただきたいと思います。

この会議は知事の方から提案して開催するということにはなっておりますけれども、議題について教育委員の方からも是非ご提案を頂きながら進めていきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上で第4回の会議を終わらせていただきたいと思います。どうもお疲れ様でした。